

平成 28 年度
事業報告書

社会福祉法人札幌厚生会
救護施設札幌市あけぼの荘

総括	1
I. 利用者支援の充実	3
1. 自己実現と個別支援計画の充実	
2. 人権を尊重した支援の推進	
3. 地域生活移行の推進	
4. 利用者様主体の生活支援	
5. 生きがい活動の充実	
6. 作業活動の充実	
7. 地域活動の推進	
8. 緊急一時保護対策事業の推進	
II. 健康支援と感染予防	10
1. 健康相談の充実	
2. 健康診断の充実	
3. 回診の実施	
4. 服薬の管理	
5. 怪我の防止と嚥下機能低下予防	
6. 感染症の予防	
7. 緊急時の対応	
別紙 月別通院状況	
III. 食の向上と栄養管理	13
1. 栄養管理と栄養指導の充実	
2. 特別食の対応	
3. 豊かな食事の提供と食事環境の改善	
4. 非常時の対応	
5. 食品衛生・衛生管理の徹底	
6. 給食単価と平均栄養所要量	
別紙 給食状況調	
IV. 安定的な施設経営と効率的な施設運営	17
1. 安定的な施設経営	
2. 施設機能の充実と運営体制の強化	
3. 職員の専門性の確立	
4. 苦情解決に向けた取り組み	
5. 地域との連携	
6. 広報活動の充実と情報公開、個人情報保護の取り組み	
V. 施設の維持管理・環境改善	21
1. 施設設備の保守・点検	
2. 施設内の清掃・美化	
3. 施設の防災管理	
別表	22
別表1 入所状況	
別表2 職員配置状況	

平成28年度 札幌市あけぼの荘事業報告

総括

はじめに

平成28年度は社会福祉施設の運営に関係する大きな環境変化があった年であった。「改正社会福祉法」が成立しその一部が施行され、それに伴う法人組織の改正、財務諸表、現況報告書等情報開示に向けた諸規程の改正、地域における公益的取り組みなど当法人としても改革を行ってきたところである。全国各地で発生した様々な自然災害、又は施設利用者の安全を脅かす事故等が起きそれを教訓にリスク対策が叫ばれた。全国救護施設協議会においては、「生活困窮者支援の第2次行動指針」が示され、更なる救護施設の機能強化が期待されてきているところである。

一方、当施設を取り巻く環境としては「循環型施設」への移行をめざしつつも、新規入所の依頼が伸びず施設財政としては厳しい状況であった。

こうした背景のなか、当施設として以下の項目を大きな柱と掲げ取り組んできた。

1. 利用者支援の充実

ここ数年来当施設の課題として取り組んできている「個別支援計画」については、全員分の策定が完了し、それに基づく支援を実施することが出来た。個人個人の自己決定と持てる能力の活用を基本とした支援内容とし、初期のアセスメントはもとよりモニタリングを行うことで、より細かな支援内容とすることが出来た。またカンファレンスを繰り返し行うことで、職員間に柔軟な発想が生まれ視点の多角化にもつながった。

施設での日常生活支援においては、人権を尊重した支援を推進してきた。「人権擁護検討委員会」を中心として、施設サービスの質の向上や課題の検討、虐待防止に対する意識の高揚を図ってきた。必要に応じて外部機関へ出向きアドバイスを頂くなどの個別的ケアも実施した。

「居宅生活訓練事業」については、開始以来順調に推移しており、今年度は2名の方が訓練を終え地域生活へ移行することが出来、引き続き新たな2名が地域生活に向けて訓練に取り組んでいる。また退所された方には施設へ通所していただき、いわゆる「居場所」を提供したり、他法事業所へ支援をつなげたりした。また「訪問事業」として定期的にご自宅を訪問し、生活に変化や支障が無いかを見守ることも行った。

生活困窮者自立支援法に基づき札幌市が設立した「生活就労支援センター（ステップ）」の協力施設として「就労訓練事業」を申請し対象者の受け皿となる枠組みを構築した。

救護施設の機能強化が求められる中、一般入所のみならず地域で暮らす方で緊急的に居所が必要となった方を「一時入所」として受け入れ、次の生活の場へとつなぐ支援を積極的に行ってきた。

2. 健康支援と感染予防

健康支援については、日頃の表情、顔色、口調、歩行状態等の観察や声掛けにより心身の変化や疾病の早期発見に努め、必要に応じて医療機関への受診を積極的に行った。

重度化の傾向に一層の拍車がかかる中、予防を目的とした活動の見直しをした。毎日のラジオ体操に加え、高齢者に適した内容のDVD機能体操を取り入れ、利用者様がより能動的に参加できる内容とした。また日頃の食事のむせ込み、誤嚥が多くみられるようになってきたことから誤嚥の予防効果が期待できる運動も取り入れた。

感染症対策については、数年前のインフルエンザ施設内流行を教訓とし、冬期には職員と利用者様にも協力をいただきながらうがい、手洗い、手指消毒及び室内の換気を行うこととし定着化してきた。今年度においてはインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症罹患者を出すことなく終えることが出来た。予防接種について、インフルエンザワクチンは基本的には全員に、肺炎球菌ワクチンは一部対象となる方に実施した。「感染症予防対策マニュアル」を網羅的なものとして新たに作成し、職員の意識統一化を図るきっかけづくりを行った。

3. 食事と栄養管理

食事については、利用者様にとって満足度の高い食事を提供すること、毎日の食事が楽しみとなることを大切にしている。「適温」にこだわった食事の提供に努め、献立は季節感のあるもの、皆様の希望を配慮したものとした。個別の身体状況、嚥食能力に応じて、粥食、きざみ食、極きざみ食、ミキサー食、とろみ食等の対応を行い摂食障害等がみられる方への適切な栄養摂取の確保に努めた。

安全な食事を提供するため、食品衛生及び環境衛生管理を徹底している。今年度については経年により不具合が生じた関連機器の入れ換えや設備の修繕を実施した。

非常時の対応としては、3日分の非常食の備蓄と避難訓練時には実際に非常食を試食し熱源や水道が出ないことを想定したものとした。

4. 安定的な施設経営と効率的な施設運営

平成28年度の年間平均措置人員は、当初計画を下回る92.1人にとどまった。新規入所の依頼はあるものの他施設への移行、入院、死亡等による退所者数も増えており、平均利用者数は漸減した。実施機関や精神科病院等各機関へのPR活動や救護施設の有無や新たな機能の周知を行い、救護施設を必要とする方の利用増に繋げるべく働きかけをしてきた。しかしながら実績としては不十分であることから今後の継続課題としていく。

リスクマネジメント対策の一環として実施してきている「ヒヤリ・ハット」については、今年度大きくシステムを変更し、より多くの職員が報告しやすい仕組みとし、事故を未然に防ぐ取り組みをした。

平成26年度に受審した「福祉サービス第三者評価」の結果を踏まえ、更に今年度は自己評価委員会を実施し、施設のあるべきサービス内容について検証した。それにより見えてきた新たな課題について次年度以降取り組んでいく。

職員の資質の向上の観点から職員研修については積極的に実施してきた。それぞれの職種や経験年数等に合わせたプログラムを選択し外部機関の研修に参加した。また現場から挙げられた施設内の課題を研修委員会において吟味しテーマ化した内容で施設内研修を行った。

札幌市指定管理施設であることから、指定管理上の課題を札幌市と共に複数回協議してきた。

5. 施設の維持管理・環境改善

施設の維持管理については、建築後の経年により大小様々な不具合が生じてきている。発生した故障、破損箇所については迅速に修繕してきたこととともに、計画的に利用しやすい生活環境への改善に取り組んだ。定期的な現場確認や専門業者等による保守点検により発覚した不具合箇所についても都度対処した。

熊本の震災報告を参考に居室戸棚に安全ロックを整備した。又各地で起きた大規模洪水を教訓とした避難マニュアルを作成し、それに基づいた避難訓練を実施した。

I. 利用者支援の充実

生活支援においては、個人を尊重し、個々の自己決定と個人の持てる能力の活用を基本とした個別支援計画の整備を進め、より個別を意識した支援体制を整えた。

1. 自己実現と個別支援計画の充実

本人がイメージする生き生きとした生活の実現を目標に、ケース会議を通じたアセスメントの徹底や職員間の情報の共有化を行うなど、個別支援計画の推進体制の整備を行った。

さらには個別支援計画を個々に説明し、ともに支援目標の実現に向けた実践に取り組むなど、利用者様を主体とした支援体制を整えた。

① 個別支援計画推進体制の充実

ア. 希望・要望の聞き取り調査の実施

- ・4月から5月の2ヶ月間において、個別の面談や日常生活上の会話などを通じて希望・要望の聞き取り調査を実施した。

イ. ケース会議の開催

- ・ケース会議において、個々が求めている生活のイメージを共有化し、担当介護職員によるアセスメントを基にニーズの整理を行い個別支援計画を作成した。さらに、本人説明がされ実践が行われているケースのモニタリングを実施した。
- ・延べ開催回数 137回

2. 人権を尊重した支援の推進

① 身体拘束廃止委員会の開催

- ・身体拘束を無くし、安心して生活できる環境を整備するため、委員会を開催し、予防策の検討及び身体拘束廃止に対する意識高揚を図った。検討案件も無くなり、5月以降については人権擁護検討委員会と統合して行う事とした。委員会開催 1回

② 人権擁護検討委員会の開催

- ・人権擁護を推進するとともに、支援の質の向上及び支援方法の確立を目指した。その中で職員のセルフチェックアンケート調査の結果内容について検討。職員意識調査アンケートの実施。個別ケースの対応について外部機関への相談とそれに基づく対応の検討。苦情対策意見箱に投函されていた意見についての検討も行った。その他課題の検討及び虐待防止に対する意識高揚を図った。

委員会開催 12回

3. 地域生活移行支援の推進

① 居宅生活移行支援の充実

- ・昨年度より訓練を実施していた2名が地域移行することが出来た。また、引き続き新たに地域生活を希望される2名の訓練を実施した。近隣の訓練用住居より施設へ通所する中で金銭管理や調理、買物や公共交通機関の利用など、社会生活に必要な活動の訓練を実施した。

② 通所事業の確立（自主事業）

- ・居宅生活訓練を終了し地域移行を行った方に、2名については引き続き施設へ通所出来る環境を整え、施設内作業への参加や日中の居場所づくりとして施設機能を提供した。5月に1名が地域活動支援センターへ、8月に1名が就労継続支援B型事業所へ活動の場を移行し、安定した地域生活へ繋げることが出来た。

③ 居宅訪問の実施(自主事業)

- ・居宅生活訓練を終了し地域移行を行った方のアパートを定期的に訪問し、生活相談支援や居宅内環境の確認を行い、安定した地域生活の継続を促した。

4. 利用者様主体の生活支援

利用者様が生活の主体者として個々の生活を考え、自主的な活動を行えるよう配慮しながら、次の施設内活動を実施した。

①施設重要事項説明書の活用

施設入所の際、一貫した十分な説明を受ける事で施設入所への不安を和らげ、施設生活がよりイメージし易いよう、施設の重要事項説明書を活用した。説明書は入所後にも、施設生活の決まりや活動内容を再確認するための資料として活用されている。

②医療行為に係る意思確認書の作成

重篤な病気や怪我によりご自身の意思を十分に医療従事者へ伝えることが出来ない場合を想定して、ご本人やご家族の治療に関する希望や意向を事前に把握し、医療従事者へ伝えることがご本人の意思や人権を尊重する一つの方法であると考え、医療行為に係る意思確認(指示)書を作成した。

③利用者様の意見反映

ア. 意見交換会 (隔月実施)

- ・介護職員の担当居室ごとに日常生活や各種活動についての意見交換を行い、それぞれの居室で出された意見を集約する場として、隔月で居室の代表者が集まり、意見交換を行った。

イ. 全体集会 (毎月実施)

- ・意見交換会で出された意見を施設生活の中に反映させるため、集会の中でその内容説明を行った。また、日常生活上の確認事項や各種活動、翌月の行事の連絡など、生活全般に関わることを確認、報告する場として実施した。

④自主的活動の支援

ニーズに合わせた個別の支援を行うことにより、自主的な余暇活動の充実に努めた。

- ・フリータイムの実施 (月1回)
- ・各種体操への参加 (毎日実施～ラジオ体操、リズム体操)
- ・ビデオ放映 (利用者様からの希望により内容選定し、月平均3回の上映を行った)
- ・四ツ葉の集いへの参加 (月1回)
- ・カラオケ愛好会活動への支援 (当番調整、相談)
- ・職員が同行する個別外出支援 (年25回)

⑤当番、清掃活動の取り組み

当番制により、居室、共有スペースの清掃活動を行った。また、利用者様と職員が月例で普段行っていない共有スペースの清掃を行うことで建物美化に努めた。

- ・清掃活動 (毎日～居室、共有スペース)
- ・各種当番活動 (食堂当番、浴室掃除、灰皿掃除、新聞配達、体操の放送)
- ・月例清掃 (毎月～共有スペース)

⑥ ご家族等との交流支援

ご家族やご友人との面会や外出、お盆や正月の帰省などを働きかけ、ご家族等との交流を深めていただいた。また、機関紙「みちしば」をご家族の方に送付し、生活の様子をお知らせした。

ア. ご家族等との交流状況

・面会の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
面会者数	10	19	34	33	6	2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
面会者数	7	7	6	7	8	5

*延べ面会者数 144名

・外出の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外出者数	5	7	8	3	12	10
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外出者数	5	9	7	7	4	3

*延べ外出者数 80名

・外泊の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
外泊者数	1	0	1	0	8	0
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外泊者数	0	0	3	0	0	0

*延べ外泊者数 13名

イ. 機関紙「みちしば」のご家族様への送付

施設の行事や利用者様の近況を掲載しご家族様にお知らせした。

- ・発行回数 年4回
- ・送付部数 55部/1回

5. 生きがい活動の充実

活気に満ちた生きがいのある日常生活を送ってもらうため、利用者様のニーズに応じた様々なレク活動やクラブ活動を実施した。地域のボランティアの皆様にご協力を頂きながらより充実したものを目指した。

① クラブ活動の充実

クラブ名	実施回数	参加延人数	ボランティア 参加延人数	実施内容
音楽クラブ	9回	165人	0人	音楽CD、DVDの鑑賞。合唱と器楽の練習を行い、クリスマス演奏会にて「赤鼻のトナカイ(器楽)」と「ブルーシャトー(合唱)」を発表した。
華道クラブ	23回	140人	0人	講師の先生による指導の下、個々が活かした作品を共用スペースや施設長室等に飾った。また、開設記念行事で展示することでより多くの方に見て頂いた。
書道クラブ	13回	183人	37人	参加者が自分の作品を書き、日常的に掲示する事や開設記念行事に展示することで多くの方に見て頂いた。また利用者様全体に呼びかけ七夕の短冊作りや元旦には書初めを行った。
自遊クラブ	12回	225人	29人	お雛様、五月人形、七夕、クリスマス、正月等、季節の飾り付けの他、ぬり絵、ペットボトルボウリング、盆踊り等を行った。
手芸クラブ	24回	143人	58人	しおり、パスケース、かご細工、折りたたみ鏡、キーホルダー、薬手帳入れ等の作品づくりを行った。開設記念行事にて展示、即売を行った。
四ツ葉の集い	12回	12人	0人	他施設の視覚障害者の方との交流及び情報交換を行った。

② レク活動の充実

ア. グループレクの実施

それぞれが自由に選択したレクに参加してもらった。

実施日	内容	参加者	実施日	内容	参加者
5月25日	買い物	12名	11月22日	食事会	4名
6月8日	夢コンサート	3名	12月3日	カラオケ	4名
6月28日	買い物	14名			
7月26日	買い物	14名			
8月19日	野球観戦	6名			
8月25日	工場見学	1名			
9月1日	動物園	5名			
10月12日	水族館	3名			
11月9日	日帰り温泉	6名			

イ. 買物レクの実施

5班に分かれ、買物を楽しんでもらった。

- ・実施日 1班 4月27日 2班 5月19日 3班 6月7日 4班 9月6日
5班 10月6日
- ・行先 イオン平岡店
- ・参加者 1班 18名 2班 15名 3班 16名 4班 16名 5班 13名
合計 78名

ウ. 宿泊旅行

班編成	日程	行先	内容	参加人数
第1班	9月13日～14日	小樽	朝里川温泉への宿泊、おたる水族館見物	14名
第2班	10月25日～26日	定山溪	定山溪温泉への宿泊、藻岩山展望台見学	12名
食事会	11月15日	北広島	くるるの杜での食事会	10名

※食事会は、宿泊旅行に参加出来なかった方を対象に実施した。

エ. 食事会

好きなお店を選んでもらい、普段とは違った雰囲気の中で食事を楽しんでもらった。

- ・行き先 焼肉バイキング、ホテルバイキング、和食バイキング、ステーキ店、ラーメン屋、回転寿司、ファミリーレストラン（和食、洋食）、お好み焼き屋、パン屋
- ・参加者数 82名

オ. その他施設行事

実施日	行事名	内容	備考
4月2日	新担当顔合わせ	新規居室メンバーと担当介護職員との顔合わせを行なった。	
4月21日	合同カラオケ交流会	合同でのカラオケ大会を通じ、他の救護施設の利用者様との交流を深めた。	参加者 6名
5月10日	第54回開設記念	施設の開設記念日をご家族様や普段お世話になっている方々と共に祝いした。	来荘者 164名
6月16日	屋外レク	隣接する公園で散策や軽い運動など個々に体を動かした。	
8月19日	物故者盂蘭盆会法要	お盆の供養を利用者様全員で行った。	
9月7日	合同パークゴルフ大会	合同でのパークゴルフ大会を通じ、他の救護施設の利用者様との交流を深めた。	参加者 9名
9月15日	敬老会	お祝い品を贈呈し、長寿のお祝いを利用者様と共に行った。	

1月19日	合同カルタ大会	他施設でインフルエンザ流行の為中止となった。	
1月24日	施設内レク	ゲーム大会を実施した。	
2月2日	節分の豆まき	年男、年女の方に施設内を回って頂き、豆まきを行った。	対象者 7名
2月21日	勉強会	熱中症予防と対策について、ビデオ放映と質疑応答を行い、健康管理に対する意識の高揚と理解を深めた。	

6. 作業活動の充実

社会参加の一環として、より多くの方が自主的に参加出来るよう、作業に係りやすい環境の整備と安定した作業量の確保に努めた。

また、作業を通して、利用者様がお互いに協力し合い、相互理解を深めていけるよう配慮した。

① 作業実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施延べ日数(日)	8	5	12	17	17	15	18	22	13	6	19	19	171
参加延べ人員(人)	346	203	499	745	681	568	582	821	481	232	700	667	6,525
1日平均参加人員(人)	43	41	42	44	40	38	32	37	37	39	37	35	465
箸作業実績(本)	29,157	8,900	42,200	38,600	90,850	55,158	38,950	93,697	36,561	18,350	81,600	79,450	613,473
箸作業収益金(円)	23,326	7,120	33,760	30,880	72,680	44,126	31,160	74,958	29,249	14,680	65,280	63,560	490,779
その他作業実績(部)	0	0	0	0	0	1,000	5,000	0	0	0	2,000	2,000	10,000
その他作業収益金(円)	0	0	0	0	0	800	4,400	0	0	0	1,600	600	7,400
収益金総額(円)	23,326	7,120	33,760	30,880	72,680	44,926	35,560	74,958	29,249	14,680	66,880	64,160	498,179

② 作業内容

- ・お弁当用箸セット製作作業
- ・その他作業(封入作業、折込作業等)

③ 作業工賃の支給

- ・偶数月に当該月の前2ヶ月分の作業参加回数を集計し、その出席回数と当該月の収益金を基礎とした計算により、作業賃金を個々に支給した。
- ・平成28年度作業収益金総額 498,179円

7. 地域活動の推進

地域住民の一員として、地域清掃による地域活動を実施した。

① 地域清掃の実施

地域の美化と公園を利用する子供たちの安全を考え、隣接の公園や歩道の清掃を実施した。

- ・実施回数 2回
- ・清掃場所 コスモス公園、近隣の歩道

② 地域交流の実施

ア. 共栄第二町内会夏祭りへの参加

- ・参加者74名

イ. あけぼの荘七夕・夏祭りへの参加呼びかけ

- ・中庭にて開催した。

③ 施設訪問の受入

日程	訪問者	内容
8月10日	友近890 (やっくん)	ボランティア活動の一環として施設へ来荘され、施設内コンサートを開催した。
11月16日	本通小学校	5年生の児童が社会学習の一環として施設へ来荘され、施設の概要について学習した。
12月13日	本通小学校	5年生の児童が社会学習の一環として施設へ来荘され、利用者様との交流を行った。

8. 緊急一時保護対策事業の推進

札幌市との連携により、市内のホームレスの方を一時的に受け入れ居所を提供する事業を行った。

受入れについては、入所前に必ず健康診断を受けてもらい感染症の予防に配慮した。

また、各区の保護課担当者との連携を密にし、短期間で居宅生活に移行できるよう努めた。

ア. 月別入所者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	2	3	1	1	2	1	1	3	1	1	2	19

*平均入所日数 29.3日 最短 7日 最長 86日

イ. 年齢別入所者数

(内訳)	30歳未満	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
	1名	3名	7名	4名	4名	0名
	5.0%	16.0%	37.0%	21.0%	21.0%	0%

*平均年齢 48.1歳 最年少27歳 最高齢67歳

ウ. 月別退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅	2	2	2	2	1	0	1	2	1	2	1	1	17
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2

9. 一時入所受入れの推進

一般的な入所のみならず、緊急性が高い一時的な入所の依頼について、居所を提供し次の生活の場へつなぐ為の支援を行った。受け入れについては、入所前に必ず健康診断を受けてもらい感染症の予防に配慮した。

ア. 一時入所利用者数（一般入所前の体験的入所は除く）

- ・ 5名

イ. 入所日数

- ・ 延入所日数 119日
- ・ 平均入所日数 23.8日

ウ. 退所先（移行内容）

- ・ 居宅移行 4名
- ・ 一般入所 1名（その後居宅移行）

Ⅱ. 健康支援と感染予防

一人ひとりの安心と健康の保持、残存機能の維持を図りながら、嘱託医の指示の下、以下のことを行った。

1. 健康相談の充実

利用者様の半数以上の方が何らかの精神障害を抱えている中で、共同生活からくるストレスや不満が溜まりやすく、また将来に対する不安も抱え易いことから、日常の小さな変化や悩みのサインを見逃さないよう観察を密に行い、主体性や意思を尊重した相談・支援に努めた。

2. 健康診断の充実

疾病の早期発見・早期治療のため、定期健診をはじめ健康チェックや個別検査の充実に努めた。

① 定期健診

検診名	実施日	実施機関名	受診者	要精検者
胃癌検診	4月6、7日	白石区保健センター	72名	2名
大腸癌検診	4月6、7日	白石区保健センター	83名	2名
胸部検診	5月18日	札幌複十字総合健診センター	70名	8名
	11月24日	札幌複十字総合健診センター	62名	7名
乳癌検診	3月16日	北海道対がん協会	14名	0名
子宮癌検診	3月16日	北海道対がん協会	13名	0名

※ 要精検者については、嘱託医の指示により適正に対処した。

② 施設内健康チェック

ア. 体重測定の実施

- ・毎月 第1月曜日 → 女子体重測定
- 第1金曜日 → 男子体重測定

イ. 血圧測定の実施

- ・毎月 第2月曜日 → 女子血圧測定
- 第2金曜日 → 男子血圧測定

③ 入所時検診

- ・居宅から直接入所される方や緊急一時入所として入所される方については、事前に嘱託医による健康診断を受診してもらい、感染症の有無や病歴等の把握を行った。

④ 個別検査

- ・嘱託医、主治医の指示を受け、胸部レントゲン、頭部レントゲン、CT、心電図、エコー、胃カメラ、採血、検尿等の検査を実施した。

3. 回診の実施

内科嘱託医、精神科嘱託医、皮膚科、歯科の定期的な回診を実施し、利用者様のきめ細かな健康管理と経過観察に努めた。なお、回診や通院により受診した月別患者数は別紙のとおり。

4. 服薬の管理

約9割の方が服薬を必要としており、うち自己管理が難しい方（現在59名）については医務管理とし、食事後や就寝時に介護職員と連携し配薬を確認した。

また自己管理が出来る方についても、定期的に残薬のチェックを行い服薬の安全に努めた。

5. 怪我の防止と嚥下機能低下予防

高齢化に伴う筋力の低下や誤嚥をできるだけ抑え、日常生活機能を失わないよう援助した。

転倒防止の為、状況に合わせてセンサーマットを使用。安定した歩行が出来るよう履物の変更を促した。誤嚥の危険性がある利用者様向けに嚥下機能訓練や転倒や筋力低下を予防するための機能体操(DVD)を行った。

- ア. ラジオ体操、DVDによる機能体操の実施（身体機能・嚥下機能・認知機能）
 - ・毎日実施
- イ. 歯磨き指導及び義歯の洗浄着脱指導の実施
 - ・実施回数 年3回
 - ・良い歯の日：4月18日
 - ・虫歯予防デー：6月4日
 - ・いい歯の日：11月8日

6. 感染症の予防

インフルエンザの予防接種をはじめ、毎日の手洗い・うがいの徹底や施設内の除菌の徹底など、感染症の防止に努めてきた。また食中毒や疥癬等が疑わしい時は主治医にすみやかに報告し、早期受診と早期治療に努めた。

- ア. インフルエンザ予防接種の実施
 - ・利用者様及び職員を対象に実施した。
- イ. 肺炎球菌ワクチンの実施
 - ・対象の一部利用者様に実施した。
- ウ. 手洗い・うがいの徹底
 - ・日常の手洗い・うがいの徹底のほか、施設レクや買い物、通院の帰荘後のうがい手洗いを徹底するなど、感染症の予防に努めた。
 - ・食堂、玄関、各階洗面所に手指消毒剤を設置し、全職員は携帯用消毒剤を持ち消毒の徹底をした。
- エ. 除菌の徹底
 - ・施設内の除菌を全職員で実施した。(夏季1日1回・冬季1日2回)
 - ・冬期間、施設内の換気を全職員で実施した。(午前、午後の2回)
- オ. 感染マニュアル作成
 - ・会議にて職員に周知
 - ・各部署に配布

7. 緊急時の対応

のど詰、転倒事故による怪我、意識障害などの事態に対し職員全員が初期対応を行えるよう知識・技術の習得に努めた。

- ア. 救急処置に関する研修の実施
 - ・AED、酸素吸入、手動式人工蘇生器等の使用法、救急時の初期対応について理解を深めた。
- イ. 「さっぽろ救急サポーター」の周知
 - ・AED設置について、玄関前に「さっぽろ救急サポーター」のステッカー貼付し、近隣の方々に使用いただけるよう周知した。

別紙

月別通院状況

延べ人員(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	施設外	13	11	16	3	9	6	6	5	10	7	8	6	100
	施設内	26	24	17	24	18	22	24	18	22	22	21	25	263
精神科	施設外	5	7	4	4	5	7	8	5	2	3	8	6	64
	施設内	21	21	16	22	20	14	17	21	17	17	21	19	226
外科	施設外	0	4	0	2	3	5	4	4	2	0	0	2	26
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	施設外	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3	0	6
	施設内	8	9	9	7	12	0	6	0	9	0	11	6	77
歯科	施設外	4	8	10	5	6	2	5	2	4	1	2	8	57
	施設内	17	27	28	25	26	23	30	25	16	13	21	30	281
婦人科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	施設外	1	4	4	2	6	4	3	3	3	4	5	3	42
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	施設外	6	1	4	4	3	4	9	2	0	5	0	0	38
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	施設外	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器科	施設外	1	1	0	1	2	0	1	1	0	1	1	1	10
	施設内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診者数	施設外	30	37	39	21	34	30	36	22	21	22	27	26	345
	施設内	72	81	70	78	76	59	77	64	64	52	74	80	847
	合計	102	118	109	99	110	89	113	86	85	74	101	106	1192

Ⅲ. 食の向上と栄養管理

満足度の高い食事をしていただけるように、セルフ配膳で適温の食事を提供した。また衛生面では感染症（ノロウイルス）や食中毒の防止に努め、安全な食事ができるよう配慮した。

1. 栄養管理と栄養指導の充実

個々の身体状況・生活状況を把握し、健康・栄養状況に応じた栄養管理を行った。

① 献立表の作成

・食事摂取基準、給与食糧構成に基づいた献立を作成した。また、食中毒の危険がある食品の使用は避け、利用者様の意見を反映しながら、献立構成の見直しを図った。

② 個別栄養管理

・個々の身体状況、喫食能力等により、粥食、きざみ食、極きざみ食、ミキサー食、とろみ食の対応を行った。

③ 栄養指導

・「全体集会」や「健康に関する勉強会」で食事やおやつの取り方について解りやすく説明した。さらに食事の際に、調味料のかけ過ぎや好き嫌いが無いよう個々に声かけを行った。

2. 特別食の対応

利用者様個々の疾病等を考慮し、特別食の対応を行った。

- ・マンナン食
- ・エネルギー制限食
- ・減塩食
- ・アレルギー等による代替食

3. 豊かな食事の提供と食事環境の改善

日常生活に変化をもっていただき、楽しく食事をしていただけるよう、日本の四季や文化を感じる行事食を提供した。

① 食事環境の改善

- ・自由席を継続し、ゆったりとした雰囲気の中、食事ができるよう環境を整えた。
- ・時差、セルフ配膳を行い、ゆとりある時間の中で適温の料理を提供した。

② 行事食、セレクトメニュー、イベント食等の充実

・食が最大の楽しみとなるよう、開設記念日、クリスマス会等の行事食をはじめ、選択食、バイキングの実施や季節、祝日にちなんだ食事を提供した。

ア. 選択食

回数	実施日	選択食の内容
1	4月20日	ロコモコ丼：メンチカツバーガー、手作りプリン：黒糖クリームカステラ
2	9月23日	ビビンバ：チーズバーガー、桃まんじゅう：バニラアイス
3	10月21日	チャーシュー麺：カレーうどん、南瓜プリン：ようかん
4	2月16日	とんこつラーメン：天津飯、お汁粉：桃のショートケーキ

イ. バイキング食

- ・実施日 3月14日
- ・献立 白飯、パン（クロワッサン・ミルクロール）、ポークカレー、醤油ラーメン、チャーシュー、チリソース肉団子、白身魚の香草焼き、天ぷら（キス、かにかま、レンコン、いんげん）、ポテトのチーズ焼き、サラダ、エクレア、どら焼き、ベビーDOG

ウ. 流しソーメン

・実施日 7月13日

エ. お弁当献立

・実施日 ①6月16日 ②11月16日

オ. 誕生会

・誕生月の利用者様から料理の希望を聞き、一番希望の多かった料理を毎月の誕生会に提供した。

カ. イベント食

◎開設記念日

・開設記念日に、寿司コーナー・おでんコーナー・焼き鳥コーナー・飲み物コーナー・喫茶コーナー等を設け、お祭り感覚の中で、好きな食事を家族や友人の方たちと楽しんでもらった。

◎夏祭り・七夕祭り

・夏祭り・七夕祭りには、焼きそば、お好み焼き、フランクフルト、カキ氷などのコーナーを出店風に設け、昼食を楽しんでもらった。

キ. クリスマス会食、年越し会食、おせち料理

◎クリスマス会食

・クリスマス会食では、ケチャップライス、ローストチキン、グラタンやテリーヌ、海老フライ、サーモンマリネなどクリスマスらしい内容でのオードブルやケーキを楽しんでもらった。

◎年越し会食

・12月30日の年越し会食では、お弁当箱を用いて、帆立御飯、海老、旨煮、茶碗蒸し、数の子、金平牛蒡、昆布巻き、栗きんとん、練り切りなど正月らしい料理を楽しんでもらった。
・また、大晦日の夕食では、親子丼と年越しそばを楽しんでもらった。

◎おせち料理

・元旦には朝食に伊達巻や黒豆などおせち五点盛り、2日の昼食には雑煮を楽しんでもらった。

ク. 季節食

・季節に合わせ、日本の文化に触れる行事食を提供した。

土用の丑の日 (うな丼)	餅つき (雑煮)	冬至 (冬至南瓜)
七草 (七草粥)	節分 (いなりとりの巻き)	ひな祭り (甘酒、ちらし寿司)

ケ. 祝日食

・祝日には、季節や家庭の温かみを感じてもらうため行事食を提供した。

昭和の日 (生ちらし)	憲法記念日 (鮭寿司)	みどりの日 (山菜おこわ)
子供の日 (赤飯、刺身)	海の日 (いなりとりの巻き)	敬老の日 (赤飯、刺身)
秋分の日 (三色おはぎ)	体育の日 (栗御飯)	文化の日 (お汁粉)
勤労感謝の日 (いくら親子丼)	天皇誕生日 (ちらし寿司)	建国記念の日 (鉄火丼)
春分の日 (三色おはぎ)		

③ 利用者様の意見反映

ア. 給食会議における利用者様の意見反映

・給食会議において、居室ごとに取りまとめた食事に対する意見、要望を利用者様の代表から聞き、給食に反映させた。

イ. 嗜好調査の実施

- ・実施日 平成29年2月
- ・調査対象 利用者様 85名

4. 非常時の対応

① 非常食の備蓄

- ・災害等に備えるため、非常食を備蓄した。
- ・備蓄内容
御飯類、スープ類、フルーツ缶、水、補助食品等、合わせて100名×3日分

② 非常食の試食

- ・防災訓練の一環として、避難訓練の日に備蓄してある非常食を昼食として試食した。
- ・と き 平成28年10月20日
- ・内 容 ドライカレー、コーンポタージュスープ、おろしりんご缶、水、リッツ

5. 食品衛生・衛生管理の徹底

安全な食事を提供するため、清潔な調理環境と調理従事者の健康、衛生管理に努めた。

① 調理室内の除菌

- ・1日3回実施（実施時間 9:30、14:00、15:00）

② 調理室内の温度測定

- ・1日2回実施（実施時間 6:00、18:00）

③ 冷蔵、冷凍庫の温度測定

- ・1日2回実施（実施時間 6:00、18:00）

④ 水質検査の実施

- ・1日2回実施（実施時間 6:00、18:00）

⑤ 原材料及び、調理済み食品の検査用保存食の保存

- ・2週間分実施

⑥ 加熱調理済み食品の中心温度測定

- ・加熱調理済み食品全てを測定

⑦ 栄養士及び、調理従事者の検便検査

- ・月1回実施

⑧ 調理従事者の個人衛生管理表による健康、衛生チェック

- ・1日1回出勤時に実施

6. 給食単価と平均栄養所要量

① 給食単価

下記単価により給食を提供した。

給食費	1人1日	977円
外食	1人1回	1,788円

② 平均栄養所要量

別紙「給食状況調」による基準により給食を提供した。

給食状況調

	kcal エネルギー	g 蛋白質	g 脂質	mg カルシウム	mg 鉄	ビタミン				1人1日 当たり 平均金額	食数
						A(μ g)	B1 (mg)	B2 (mg)	C (mg)		
28年4月	1,814	72.4	44.3	677	10.4	805	1.27	1.55	131	860	2,717
28年5月	1,836	74.8	43.0	694	9.7	815	1.27	1.56	146	987	2,791
28年6月	1,818	73.1	44.0	687	10.2	845	1.26	1.57	156	860	2,673
28年7月	1,817	82.9	45.2	686	10.1	792	1.28	1.56	136	889	2,760
28年8月	1,805	71.1	43.8	705	9.9	776	1.26	1.52	128	910	2,707
28年9月	1,811	72.2	42.3	678	9.7	750	1.26	1.49	148	1,007	2,595
28年10月	1,806	71.0	44.2	666	10.0	829	1.25	1.56	137	954	2,671
28年11月	1,817	73.0	42.4	683	10.3	779	1.28	1.53	135	1,045	2,528
28年12月	1,836	74.2	44.7	709	10.7	804	1.21	1.53	131	1,048	2,612
29年1月	1,805	71.2	42.5	684	10.0	773	1.20	1.52	128	993	2,610
29年2月	1,829	73.3	45.4	719	9.6	806	1.26	1.61	131	923	2,394
29年3月	1,858	74.4	44.7	688	10.2	788	1.36	1.59	142	1,255	2,624
合計	21,852	883.6	482.3	8,276	120.8	9,562	15.2	18.6	1,649	11,731	31,682
月平均 1人1日 当たり	1,821	73.63	43.85	690	10.1	797	1.26	1.55	137	977	2,640

IV. 安定的な施設経営と効率的な施設運営

1. 安定的な施設経営

安定的な施設経営のために、最大の収入財源である利用人員の充足を目指した。しかしながら今年度においては十分な人員確保にはならなかった。それ故利用者様へのサービス低下につながらないように最大限配慮しながらコスト削減した予算執行とした。

① 定員の充足

- ・継続的な利用者様の確保（通年平均措置人員実績92.1名、月別人員は別表1を参照）
- ・札幌市内及び近郊の福祉事務所、病院相談窓口等へのPR活動を行った。（実績30件）
- ・地域連絡協議会や札幌市ホームレス相談支援センターネットワーク会議等へ参加した。

② コスト削減

- ・点けっぱなし・出しっぱなしの撲滅、コピー配布物の減少等、コスト意識の向上について職員および利用者に啓発した。
- ・調達物品等の再見積等により経費の節減に努めた。
- ・札幌市環境局環境保全行動に基づく二酸化炭素排出量削減に取り組んだ。

2. 施設機能の充実と運営体制の強化

利用者様が安心して生活できるよう、事故防止のための検証やマニュアルの整備を行い、事故を未然に防ぐための処置を講じた。また各種委員会や施設運営のための各種会議の活性化をはかり、職員間の連携の強化や効率的な施設運営に努めた。

① リスクマネジメント体制の整備

ア. ヒヤリハット報告の徹底

総合的なリスクマネジメントの取り組みとして、気づきメモ（ヒヤリハット報告）の提出の促進や事象の検証を委員会にて行った。また改善策については職員に周知・徹底するなど、大きな事故につながらないよう取り組んだ。

《年間分類別事例数》

投薬	転倒・転落	食事・誤嚥	無断外出	設備	防災	外出先	外部	忘れ	勘違い	その他	合計
16	15	8	2	2						17	60

イ. 事故報告書（インシデントレポート）の徹底

事故が起きた場合は、どんな小さな事故でも事故報告書をすみやかに提出するよう徹底し、分析と対策を講じた。事故の再発防止に努め、その内容を随時札幌市へ報告した。

《年間分類別事故数》

無断外出	転倒・転落	誤嚥・誤薬	その他	合計
2	5	4	2	13

② 委員会活動の充実

ア. 人権擁護委員会の開催

より質の高い支援を目指し、また利用者様の人権擁護を推進することを目的とし委員会を毎月の職員会議後に定期的に開催した。

全職員を対象としたセルフチェックアンケートを実施し、支援のあり方について日頃疑問に思っていることや、いわゆる虐待と呼ばれる行為について等を学び、職員間の意識の差異を縮めていくことを目指した。

イ. 研修企画委員会の開催

・とき 6月2日・6月30日

・ところ 会議室

・内容 各部署の研修希望テーマと講師について

*施設内研修の実施にあたり、事前に委員会の委員が研修テーマ・講師に関するヒアリングを実施した。

ウ. 施設サービス自己評価委員会の開催

・とき 11月17日・11月25日・12月2日

・ところ 会議室

・内容 福祉サービス内容評価基準（救護施設共通・北海道版）に則り、職員による施設内サービスの自己評価を行った。

③ 業務の効率化

- ・運営会議の開催 (月1回)
- ・職員会議の開催 (月1回)
- ・給食会議の開催 (月1回)
- ・支援会議の開催 (月1回)
- ・入所検討会の開催 (年8回)
- ・人権擁護委員会（身体拘束廃止検討委員会） (年12回)
- ・ヒヤリハット委員会

④ 障害者雇用の促進

障害者雇用促進法に基づき、障がい者の積極的雇用を推進してきているところであり、数年前より清掃業務職員が定着している。活き活きとして働いておりかつ日常業務の効率化も図られている。

3. 職員の専門性の確立

あけぼの荘「基本理念及び6つの基本方針」の行動規範を遵守し、専門職集団としての資質とサービスの更なる向上に努めた。また職員の福利厚生の実施をはかることで、より活気のある職場づくりに努めた。

① 職員体制と専門性の強化

ア. 加配の実施

- ・救護施設職員配置基準に基づく適正な職員配置に加え、加算制度を利用した職員配置を行った。（介護職員1名、看護師1名）

イ. 研修会への参加

- ・外部団体主催の各種研修会への積極的な参加を行った。

研修名	とき	ところ	参加者
SST初級研修会	5/21～22	札幌市 北星学園大学	1名
入所系職員研修	5/26	札幌市 北農健保会館	1名
第46回全道救護施設職員研修会	6/21～22	帯広市 アパホテル帯広駅前	6名

対人援助レベルアップ研修	6/30	札幌市 北農健保会館	1名
リスクマネジメント研修	7/7	札幌市 北農健保会館	1名
キャリアアップ研修 (チームリーダーコース)	7/21～22	札幌市 かでる 2・7	1名
衛生推進者養成講習	7/25	北海道トラック総合研修センター	1名
新任経理・総務担当者研修	7/28	札幌市 北農健保会館	1名
リスクマネジメント研修	8/1	札幌市 かでる 2・7	1名
福祉施設における社会貢献を考える研修	8/9	札幌市 社会福祉総合センター	1名
看護師専門研修	8/22	札幌市 かでる 2・7	1名
施設の食事を考える研修	8/25	札幌市 北農健保会館	1名
キャリアアップ研修 (中堅職員コース)	8/29～30	札幌市 かでる 2・7	1名
介護職員専門研修	9/8～9	札幌市 かでる 2・7	1名
施設の食事を考える研修	9/8	札幌市 北農健保会館	1名
個別ケア実践力向上研修	9/29	札幌市 北農健保会館	1名
第40回全国救護施設研究協議大会	9/28～30	青森県 ホテル青森	4名
社会福祉士実習指導者講習会	10/15～16	札幌市 西野学園	1名
医療知識向上研修	10/27	札幌市 北農健保会館	1名
北海道救護施設研究セミナー	11/7～8	札幌市 北海道第2水産ビル	6名
広報講習会	11/7	札幌市 かでる 2・7	1名
施設相談員専門研修	11/8～9	札幌市 かでる 2・7	1名
経理担当者研修	11/25	札幌市 かでる 2・7	1名
救護施設福祉サービス研修	11/29～30	東京都 タイムズ24	2名
医療知識向上研修	12/1	札幌市 北農健保会館	1名
施設長専門研修	12/9	札幌市 かでる 2・7	1名
地域におけるセーフティネット推進セミナー	1/24～25	東京都 新霞が関ビル	2名

ウ. 施設内研修の実施

回数	とき	ところ	研修内容	講師	参加者
第1回	7/25 7/27 8/4	事務室	パソコン講習会	施設職員 (事務員)	28名
第2回	1/25	地域交流室	『HIV・AIDSの理解』	北海道大学病院認定HIV感染症 指導看護師 渡部恵子氏	27名

エ. 新人研修の実施

- ・新規採用職員・転入職員への新人研修を実施した。

① 職員の福利厚生

- ・労働安全衛生法に基づく職員健康診断を実施した。(全職員11月、夜勤業務従事者のみ5月)
- ・福祉医療機構・北海道民間社会福祉事業職員共済会・福利厚生センターに加入し職員が働きやすい環境の整備に努めた。
- ・職員親睦会において慶弔費の給付、歓送迎会等を実施した。
- ・札幌協レクリエーションへ積極的に参加し会員相互の親睦を深めた。

4. 苦情解決に向けた取り組み

苦情受付に関する利用者様への周知、意見箱の設置など、意見や苦情を出しやすい環境づくりに努めている。

- ・苦情受付件数 3件～利用者様間の共用部テレビの使用方法について、日常生活における決まりや配慮について、人間関係における配慮や金銭管理における職員対応について

5. 地域との連携

町内会等との交流事業の促進や施設機能の地域開放など、地域に開かれた施設として、地域との「共生」を目指し、地域との連携、交流の促進を図った。

- ア. 施設行事への参加呼びかけ
 - ・「夏祭り」開催の呼びかけを町内会、近隣関係者、児童会館等に行いご参加いただいた。
- イ. 地域交流室の開放
 - ・近隣町内会等へ会場提供を行った。(利用実績：7回、延べ64名)
- ウ. 近隣町内会主催の夏祭りへの参加
- エ. 福祉除雪事業への参加
 - ・福祉除雪の地域協力員として除雪活動を行った。

6. 広報活動の充実と情報公開、個人情報保護の取り組み

ホームページや広報誌を通じて、利用者様の生活や行事等を家族にお伝えするとともに、札幌市あけぼの荘の事業内容や決算状況を不特定多数の方々に公開した。

① 広報活動の充実

- ア. ホームページの更新
 - ・年間閲覧数：5,103カウント
 - ・<http://akebonoso.sapporo-koseikai.jp/>
- イ. 広報誌「みちしば」の発行
 - ・発行部数 170部
 - ・配布先: ご家族・関係機関
 - ・発行内容

号数	発行日	発行内容
140号	4月15日	平成28年度事業計画、施設内レク、バイキング食 等
141号	7月15日	買物レク1・2・3班、開設記念、 等
142号	10月15日	一泊レク小樽、夏祭り、流しソーメン、敬老会、買物レク 等
143号	1月15日	一泊レク定山溪、クリスマス、年越し、日常の様子 等

② 情報公開

- ・ホームページにおいて施設概要、事業報告書及び決算収支状況を開示した。

③ 個人情報保護の取り組み

- ・個人情報保護規程に基づく個人情報保護を徹底した。
- ・プライバシーに配慮した支援を行った。
- ・マイナンバー法の施行に伴い特定個人情報について適正に管理した。

V. 施設の維持管理・環境改善

1. 施設設備の保守・点検

各種機器の維持管理及び、経年変化による建物の劣化に伴う各所修繕を実施した。

① 設備の保守・点検

- ・消防用設備の点検（年2回～専門業者／自主点検：毎月）
- ・自家用電気工作物（キュービクル）の点検（毎月～専門業者）
- ・エレベータの保守点検（毎月～専門業者）
- ・温水ボイラーの保守点検（4月・11月～専門業者）
- ・浴槽水の分析検査（レジオネラ属菌検査）（9月～臨床検査業者）
- ・受水槽・貯湯槽の清掃保守及び水質検査（2月～専門業者）
- ・機械警備の保守点検（毎月～専門業者）

② 設備等の修繕・高額物品の購入（30万円以上抜粋）

- ・居室戸棚安全ロック・鍵の設置
- ・プレハブ冷蔵庫交換
- ・電話ボックス設置
- ・食堂照明交換（LED化）
- ・厨房排水溝改修工事

2. 施設内の清掃・美化

居住環境の清潔保持と施設内感染の予防に努めた。

- ・館内床美装（食堂：隔月／その他廊下等：年2回）
- ・布団丸洗い及び乾燥殺菌（丸洗い4月、乾燥殺菌10月）
- ・シーツ・ホープの交換（月2回）
- ・居室内カーペット部分（汚損箇所）洗浄（年1回）
- ・月例清掃（毎月～職員と利用者の協働清掃）
- ・館内除菌（インフルエンザ、ノロウイルス対策）の実施（毎日～職員が実施）

3. 施設の防災管理

防火はもとより万が一の災害に備え、組織的な体制を整備し訓練を実施した。

① 防災対策の推進

- ア. 消防計画に基づく自衛消防隊の編成
- イ. 放火対策として、施設周辺の可燃物等の整理整頓
- ウ. 緊急時における職員連絡体制の整備
- エ. 防災設備、備品の整備の購入
- オ. （水害による）非常災害対策避難計画の作成

② 防災・災害避難訓練の実施

実施日	開始時刻	出火想定場所	参加者	備考
4月19日	10:00	1階・作業室	92名	自衛消防訓練(検証訓練)
10月20日	10:00	2階・喫煙室	103名	地震及び火災を想定した総合訓練
11月14日	19:30	2階・トイレ	86名	夜間を想定した自衛消防訓練
3月22日	15:00	1階・床上浸水	86名	床上浸水を想定した垂直避難訓練

別表 1

入所状況(平成29年3月31日現在)

入退所状況調

(人)

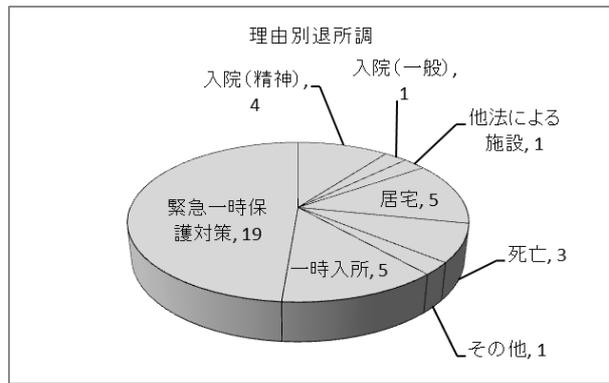
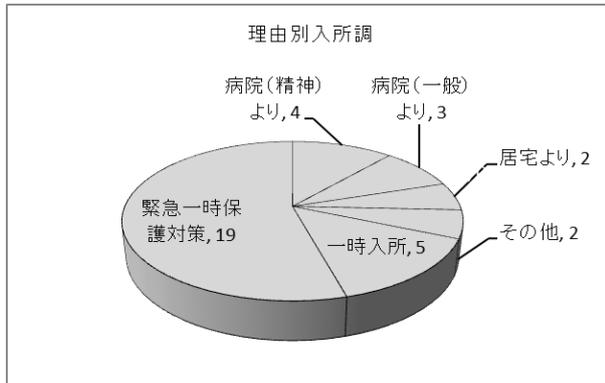
月	H28.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29.1	2	3	平均
月初措置人員数	93	93	94	95	93	89	94	91	90	91	90	89	91.83
	(2)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(2)	0	(2)	(1)	(1)	(1.33)
自由契約者数	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0.67
合計	94	94	95	96	94	90	95	92	90	91	90	89	92.50

※ () は緊急一時保護対策事業による措置人員数を再掲

(人)

月		H28.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29.1	2	3	合計
入所	病院(精神)より	1				1		1			1			4
	病院(一般)より	1				1		1						3
	他法により													0
	居宅より							1		1				2
	その他								1			1		2
	一時入所 (一般入所前の体験的入所は除く)		1	1	1		1				1			5
	緊急一時保護対策事業により	1	2	3	1	1	2	1	1	3	1	1	2	19
	合計	3	3	4	2	3	3	4	2	4	3	2	2	35

月		H28.4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29.1	2	3	合計
退所	入院(精神)					1		1		1	1			4
	入院(一般)				1									1
	他法による施設							1						1
	居宅					2			1		1	1		5
	死亡	1				2								3
	その他								1					1
	一時入所 (一般入所前の体験的入所は除く)			2		1		1			1			5
	緊急一時保護対策事業により	2	2	2	2	1	1	1	3	1	2	1	1	19
	合計	3	2	4	3	7	1	4	5	2	5	2	1	39



年齢別調

年齢	20~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80以上	合計
男	0	1	3	8	4	8	8	10	2	44
女	1	0	2	8	5	6	6	7	10	45
計	1	1	5	16	9	14	14	17	12	89

最少年齢 男子 30歳

女子 28歳

最高年齢 男子 91歳

女子 91歳

平均年齢 男子 66.09歳

女子 68.50歳

全体平均 67.42歳

在所期間別調

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
男	4	9	3	11	6	2	9	44
女	5	3	3	8	6	4	16	45
計	9	12	6	19	12	6	25	89

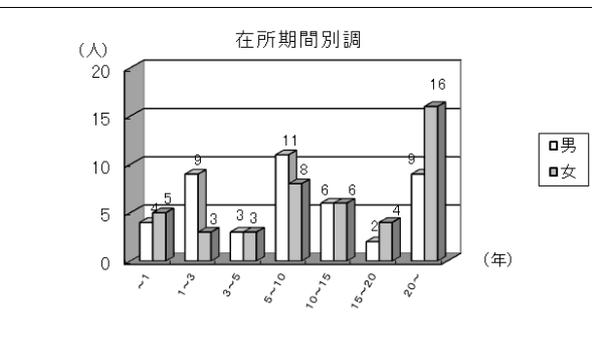
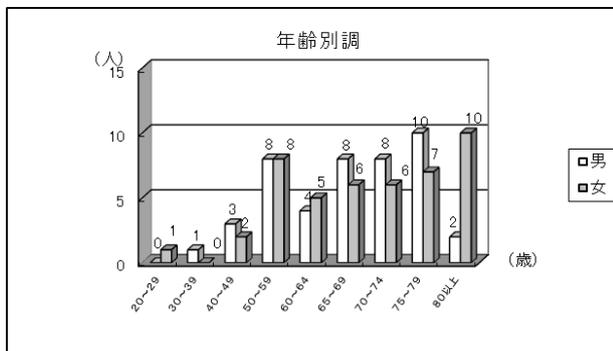
最少期間 男子 0年5ヶ月 女子 0年0ヶ月

最高期間 男子 49年2か月 女子 29年8ヶ月

平均在所期間 男子 11年8ヶ月

女子 13年10ヶ月

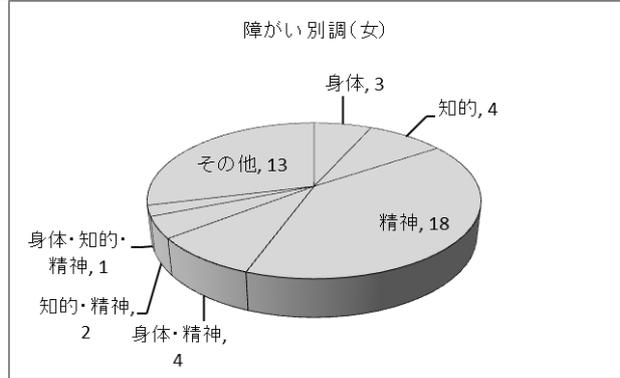
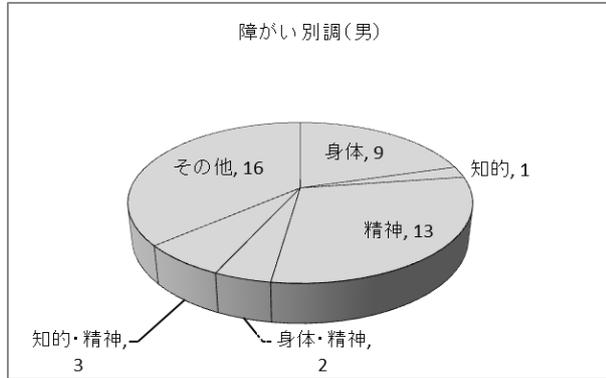
全体平均 12年9か月



障がい別調

※判断は手帳の所持による

	身体	知的	精神	身体・知的	身体・精神	知的・精神	身体・知的・精神	その他	合計
男	9	1	13	0	2	3	0	16	44
女	3	4	18	0	4	2	1	13	45
計	12	5	31	0	6	5	1	29	89



障害者手帳保持調

身体障害者手帳	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男	1	3	4	1	0	2	11
女	1	1	0	2	2	1	7
計	2	4	4	3	2	3	18

精神保健福祉手帳	1級	2級	3級	合計
男	2	15	1	18
女	4	21	0	25
計	6	36	1	43

療育手帳	A	B	B-	合計
男	0	3	1	4
女	3	4	0	7
計	3	7	1	11

ADL状況調

区分	歩行				食事			排泄			入浴			着衣		
	自力歩行	補助具使用	車椅子使用	歩行不能	自分で可能	一部介助	全介助	自分で可能	一部介助	全介助	自分で可能	一部介助	全介助	一部介助	自分で可能	全介助
実数	62	13	8	6	42	46	1	59	24	6	43	31	15	72	12	5

受給年金調

	国民年金					厚生年金			その他	合計
	障害 基礎	老齢 基礎	障害 (旧法)	老齢 (旧法)	遺族 基礎	障害	老齢	遺族		
男	16	0	0	0	0	1	11	0	8	36
女	21	3	2	0	0	2	4	2	3	37
計	37	3	2	0	0	3	15	2	11	73

実施機関別入所人員調

各市別人員				各振興局別人員			
実施機関名	男	女	計	実施機関名	男	女	計
札幌市	24	32	56	空知総合振興局	1		1
小樽市	1		1	上川総合振興局	1		1
北見市	2	2	4	根室振興局	1		1
江別市		1	1	オホーツク総合振興局	2		2
三笠市	5	4	9	十勝総合振興局	3	1	4
根室市		1	1				0
北広島市		1	1				
岩見沢市	1		1	自由契約			0
砂川市	1		1				0
恵庭市	1		1				0
登別市		1	1				0
紋別市		1	1				0
苫小牧市	1	1	2				0
							0
							0
小計	36	44	80	小計	8	1	9
				合計	44	45	89

別表2

職員配置状況

(平成28年4月1日 現在)

区分	施設長	事務員	主任指導員	介護職員	介助員	看護師	栄養士	調理員	ほか 役員等	医師 (嘱託)		合計
										内科	精神科	
定数	1	2	1	17	1	1	1	4 (1)	0	(1)	(1)	28 (3)
現在員	職員	1	2	1	17	1	2	1	4			29
	嘱託									(1)	(1)	(2)
	非常勤等				(4)				(4)	(5)		(13)